

立位支援型電動車椅子の筋ジストロフィー および類縁疾患患者における有用性調査

松村 剛[†] 久留 聡¹⁾ 中村 昭則²⁾
諏訪園 秀吾³⁾ 中 島 孝⁴⁾

IRYO Vol. 79 No. 1 (4-9) 2025

要 旨

立位支援型電動車椅子は、立位に加え座面高調整や多様なポジショニングが可能で、欧米では普及が進んでいるものの、本邦での使用例は限定的である。筋ジストロフィーおよび類縁疾患において、立位支援型電動車椅子を試用する機会を得たので、院内環境と実利用環境で有用性と安全性を評価した。多様なポジショニング・座面高調整機能については、利用者の満足度は高かった。一部の患者において、可能な家事が増えサービス利用が減らせる、車椅子上での体位調整が自分でできるようになり体位調整・移乗の介助が減らせる、外出意欲が上がるといった反応があった。立位機能の満足度も高かったが、下肢固定具が重く介助者が必要、関節や固定部の痛み・疲労などで長時間立位を維持することが困難な者もいた。利用者に高度心不全・ハイリスク不整脈を合併した者は無く、立位時に血圧低下や不整脈を認めた症例も無かった。一方、立位支援型電動車椅子は通常の車椅子に比べ大きく、重量もあり小回りが利きにくいことから日本の住宅事情では利用環境が限られ実利用環境で試用できる患者が限定された。また、車椅子への移乗が従来の方法では困難、機能が豊富なことから操作習熟に時間を要すといった声もあった。立位支援型電動車椅子は、使用環境が適せばとくに歩行能喪失早期の患者において自立支援効果・介助負担軽減効果が高いと期待される。日本の住環境に合わせた開発がなされれば有用性は高いと期待できる。

キーワード：立位支援型電動車椅子、筋ジストロフィー、自立支援、満足度

背 景

筋ジストロフィーでは、多くの患者が全身の筋力

低下進行により車椅子生活になる。車椅子生活になると同じ姿勢が長時間続くこと、姿勢の調整が自分でできないことから、疼痛や褥創、下肢の浮腫や深

国立病院機構大阪刀根山医療センター 脳神経内科 1) 国立病院機構鈴鹿病院 脳神経内科 2) 国立病院機構まつもと医療センター 脳神経内科 3) 国立病院機構沖縄病院 脳・神経・筋疾患センター 4) 国立病院機構新潟病院 脳神経内科 †医師

著者連絡先：松村 剛 国立病院機構大阪刀根山医療センター 〒560-8552 大阪府豊中市刀根山5-1-1

e-mail: matsumura.tsuyoshi.kq@mail.hosp.go.jp

(2024年7月10日受付 2024年12月20日受理)

Assessment of Usefulness of Standing Electric Wheelchair in Patients with Muscular Dystrophy and Related Diseases Tsuyoshi Matsumura, Satoshi Kuru¹⁾, Akinori Nakamura²⁾, Shugo Suwazono³⁾, and Takashi Nakajima⁴⁾

NHO Osaka Toneyama Medical Center 1) NHO Suzuka Hospital 2) NHO Matsumoto Medical Center 3) NHO Okinawa Hospital 4) NHO Niigata National Hospital

(Received Jul. 10, 2024, Accepted Dec. 20, 2024)

Key Words : standing electric wheelchair, muscular dystrophy, independence support, caregiver burden reduction, satisfaction